

平成 29 年度野生鳥獣による農作物被害調査結果の概要

1 調査方法

本調査は、「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律（平成19年法律第134号）」に基づき、国の調査依頼を受けて実施。

各市町村が、被害を受けた作物の被害額や鳥獣の種類等について、農業共済組合への照会や被害農家からの報告、JA等の関係団体への聞き取り等により調査した結果を、県が取りまとめて国に報告するもの。

2 調査結果の概要

○平成 29 年度における鳥獣による農作物被害額は、前年度より 2 千 2 百万円減少し（前年比 96%）、4 億 7 千 7 百万円となった。

○鳥獣別に見ると、イノシシによる被害が最も大きく 52%（2 億 5 千万円）、次いで、カラスとシカが同率 13%（6 千 4 百万円）となっている。

○増減額を主な鳥獣種類別に見ると、被害が増加した鳥獣としては、カモが 2 千 5 百万円増（前年比 370%）、アナグマ等のその他獣類が 1 千 3 百万円増（前年比 360%）で増加しており、ヒヨドリは微増している。一方、減少した鳥獣としては、シカの減少額が最も大きく、前年より 4 千 3 百万円減少（前年比 60%）、イノシシやカラス、サルでも被害額が減少している。

○地域別に見ると、被害が増加しているのは 4 地域（宇城、上益城、鹿本、芦北）で、このうち上益城地域では被害額が 2 千万円以上増加している。（主にシカ、アナグマによる被害増）

○市町村別に見ると、被害額は 27 市町村で減少し、17 市町村で増加している。

平成29年度農作物被害額

青文字：減少、赤文字：増加

項目		被害額	前年度からの増減額(前年比)
全	体	4億7,732万円	約 2千2百万円減少 (96%)
内	イノシシ	2億4,774万円	約 2千5百万円減少 (91%)
	カラス	6,412万円	約 3.3百万円減少 (95%)
	シカ	6,375万円	約 4千3百万円減少 (60%)
	カモ	3,529万円	約 2千6百万円増加 (370%)
	アナグマ等	1,794万円	約 1千3百万円増加 (361%)
	ヒヨドリ	1,293万円	約 2.0百万円増加 (118%)
	その他	3,556万円	約 7.8百万円増加 (128%)

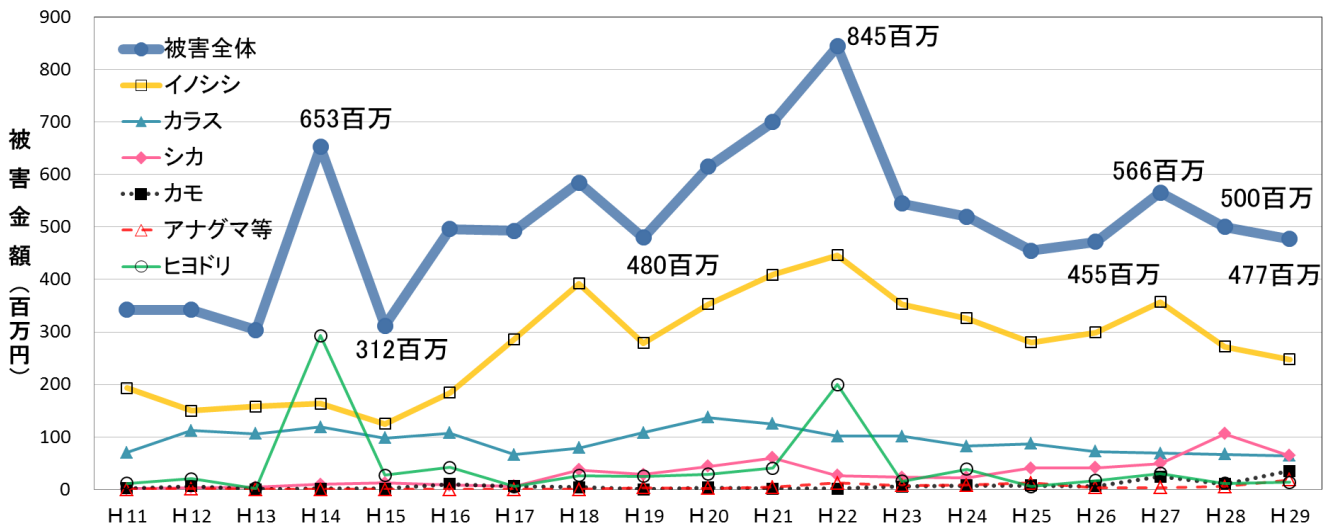
被害額の増減の主な理由

地域ぐるみで「えづけSTOP!」に取り組む、効果的な侵入防止柵の設置等を実施した地域などにおいて、対策の効果により被害の低減が図られ、イノシシによる被害は減少。

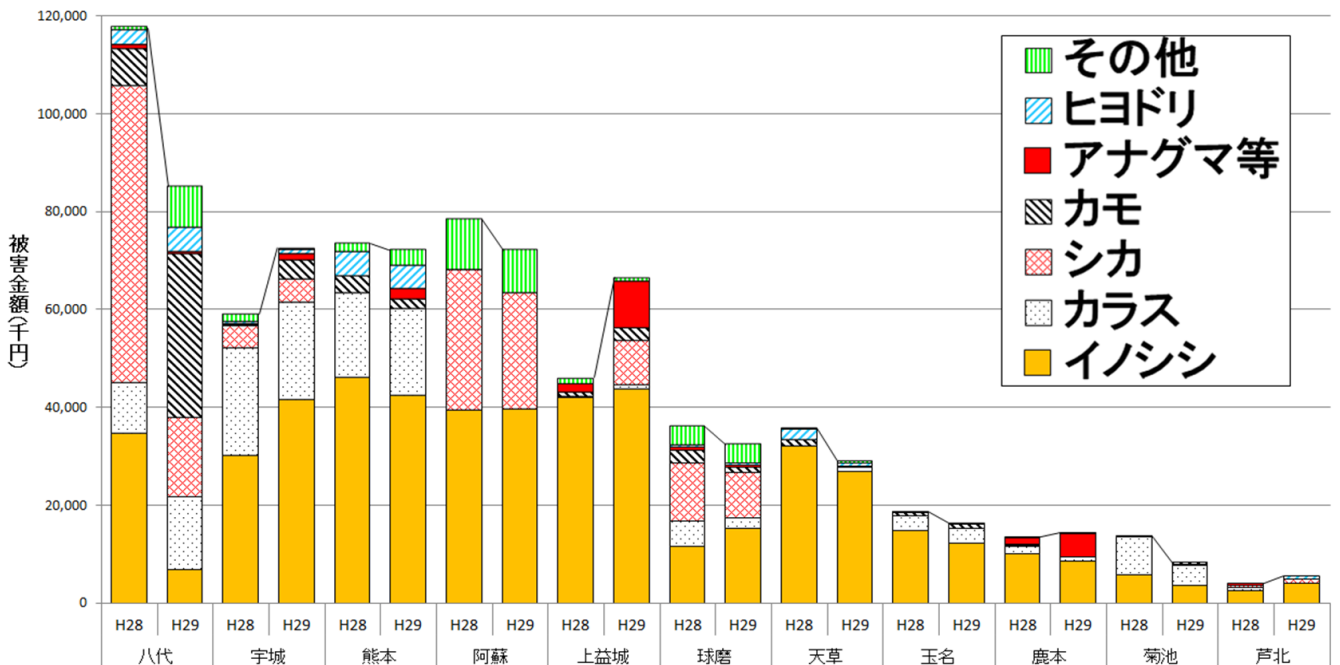
また、H28 年度に発生した八代地域におけるシカによるショウガ被害への対応がなされたことで、全体的に減少した。

一方、八代地域ではカモの被害が大幅に増加した。これは、H29 年度は日本全国で冬の寒さが厳しく、これまでは本県での越冬を終え飛去していた 2 月頃にも継続して滞在したことによるものと考えられる。

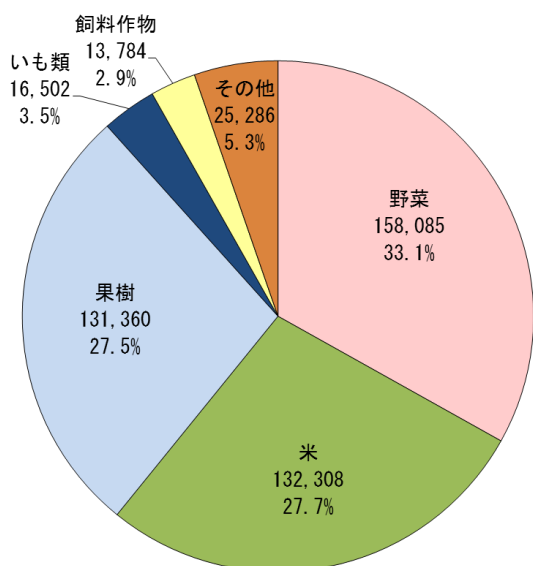
被害額の推移



地域別の被害額



作物別の被害額



鳥獣種別の被害額

